

株主構成の変化が地域銀行の経営に与える影響

北村 富行
小島 早都子

目 次

- | | |
|------------|---------|
| 1. はじめに | 4. 推計結果 |
| 2. 分析対象データ | 5. 終わりに |
| 3. 分析枠組み | |

本稿では、2010～16年度の上場地域銀行を対象に、近年の外国機関投資家の株主としてのプレゼンス拡大が銀行経営に及ぼす影響について、収益力と株主還元策という二つの観点から分析する。分析結果によると、収益力に対しては、これまでのところ明確な影響を及ぼしていることが確認できない。一方、株主還元策に対しては、配当支払と自己株買いの積極化を促す方向に作用している可能性がある。なお、本稿は本文と補論で構成されており、詳細を補論で述べている部分については本文中に注が付されている。

1. はじめに

地域銀行では、人口動態の変化に伴う金融サービス需要の減少や、長期化する低金利環境の下で、近年、基礎的な収益力の低下が続いている。現時点では、地域銀行は全体として充実した資本基盤を備えているものの、こうした基礎的な収益力の

低下が今後も続いていけば、自己資本の水準に低下圧力がかかっていく。したがって、地域銀行では、基礎的収益力の向上に向けた取組みを進めるとともに、株主還元の在り方など、望ましい収益配分についても、検討を進めていくことが重要である。

こうした中、地域銀行の収益力や収益配分の在



北村 富行 (きたむら とみゆき)

日本銀行企画局政策調査課企画役。2000年慶應義塾大学環境情報学部卒業後、日本銀行入行。2008年オハイオ州立大学経済学部大学院博士課程修了 (Ph.D.取得)。イングランド銀行出向、金融機構局企画役を経て、18年6月より現職。



小島 早都子 (こじま さとこ)

日本銀行金融機構局金融システム調査課兼考査企画課主査。2006年東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程修了後、日本銀行入行。調査統計局経済調査課、金融機構局金融システム調査課主査を経て、18年10月より現職。